

小山三中だより

ひまわり



学校教育目標

【目指す生徒像】

自ら進んで学習する生徒

正しく判断し行動する生徒

心身を鍛え逞しく生きる生徒

2024.2.19発行(第10号)

小山市立小山第三中学校

志を立てる

学校長 高野健一

毎日寒い日が続きますが、いつの間にか節分、立春を過ぎ、暦の上では春を迎えることになりました。かぜなどをひかずに健康管理には十分気をつけてお過ごしいただきたいと存じます。

ところで、「通過儀礼」という言葉をご存知でしょうか。これは、子どもが成長していく過程の様々な「儀式」、たとえば、生まれてまもなくの「お宮まいり」、や「七五三」などを指す言葉だそうです。中学生に当たる時期には、(13歳前後)「十三参り、髪結」などと通過儀礼が集中しておりその代表的なものが「元服・裳着(もぎ・女兒)」で、どれも成人の仲間入りの儀式として行われていたようです。現在ではこのようなしきたりはほとんど見られませんが、大人への入り口に立った自覚をもっている年頃です。そこで、多くの学校では「立春」の時期に2年生を対象に「大人への一歩を踏み出す」行事を実施し、「稚心を捨てころざし(志)を確立させる(立志の)」機会を設けているようです。

本校におきましても、2月2日(金)に2学年の生徒を対象に「立志式」を行いました。第I部では、立志作文発表として学年代表の さんと さんの発表。さらに、クラスごとの誓いの言葉唱和、思い出のアルバム視聴、学年合唱「明日の空へ」を行いました。第II部では、元野木町教育長、現小山市車屋美術館長であり元小山第三中学校長の中野晴永先生をお迎えして「それぞれが輝く青春時代を創ろう」という演題で、ご講話をしていただきました。

2年生の皆さんは間もなく、小山第三中学校の最高学年として、本校の中心になります。立志式を機に志を立て、自分を見つめ、自分を磨き、目標達成のために必要な力を身に付け、夢や理想を実現できるよう頑張ってください。また、周りの人への感謝の気持ちを忘れず力強く前進していくことを期待しています。

<追伸>

保護者の皆様には、小さい頃の写真の提供をしていただき、ありがとうございました。御協力に感謝申し上げます。

立志式を迎えて

2年2組 さん

僕の将来の夢は正しい道を進む大人です。こう思ったきっかけは人気だったお笑い芸人さんや俳優さんが問題を起こしてしまったり、薬物に手を染めてしまったりしたことを見たことです。

正しい道を進む大人になるためには、今から正しいと思う行動をすることが大切だと思います。だから僕は「志を立てる」ことが一番大切だと思います。人は志がないとやる気になれません。実際、僕も小学校の頃は何かの志もなく生活していました。そのため一度道を踏み外してしまったことがあります。しかし、自分の親や親友が「お前いつまでそんなくだらないことやってんの?」と言って引き戻してくれました。僕を引き戻してくれた人には感謝してもしきれません。

そして、僕には憧れの存在がいます。それが 先生と 先生です。 先生は「正義」を大切に「正しいことをしている人が報われない学校はありえない」とおっしゃっていました。僕はこの一言を聞いてとても心に響きました。また、 先生は何でもきちんに行い、冷静に物事を判断している姿に憧れました。特に自分の欲に打ち勝ち自分の志に向かってコツコツと努力していく姿が、正に自分が目指す大人と考えるからです。

自分や自分を大切にしてくれる人達のためにも、自分は正しい道を進んでいきたいです。

2年3組 さん

小学校のときの私は、静かで友達があまりおらず、休み時間にたった一人で自分の席に座っているような子でした。しかし、中学生になってからは、少しずつ声も大きくなっていき積極的に友達と話せるようになりました。

そして今、クラスの学級委員としてクラスに貢献しています。何が私を変えてくれたのかというと、私はこの小山第三中学校という環境があったからこそのことだと思います。三中は挨拶を大切にしている学校です。しかし、私は入学したばかりの頃、大きな声で挨拶をするということが苦手でした。それでも大きな声で挨拶をする先輩方や同級生の皆の姿を見て「私も頑張らなくては」と思い、少しずつだけでも大きな声を出せるようになってきました。そして挨拶を通して、たくさんの仲の良い友達を作ることができました。

今の私は、「挨拶」は人と人とを深く繋げるための大切なコミュニケーションだと思います。小学生の頃のあまり挨拶もできなかった私は、そう考えることはありませんでした。しかし、私は中学校生活を通して自分の性格も乗り越えて何かに直向きに努力することの大切さを学びました。このことを私に教えてくれた三中には本当に感謝しています。

立志を迎え、私はこれからの人生で自分の殻を破って何かに挑戦できるような大人になりたいです。

安全教育

交通指導担当

交通指導部では「自分の命は自分で守る」をテーマに、自転車の安全な乗り方や交通ルール・マナーについて、万が一事故に遭遇した場合どうなるのか等を集会や放送を利用して生徒に指導してまいりました。今年度は交通委員会の活動として、生徒の声で事故が多くなる時期に、どういうことを注意して自転車に乗ると良いかを放送で伝えました。登下校中の事故発生件数は年々確実に減っており、一人一人の意識の向上が見られます。保護者の皆様には、引き続き交通安全についてお子様にお話くださいますようお願いいたします。「誰も見ていないし…」「少しくらいなら…」このほんの僅かな油断が、取り返しのつかない大事故を招くかもしれないという意識を常に忘れずに、安全に登下校してほしいと思います。

国際理解教育

日本語教室担当

1月現在、本校には56名の「外国につながる生徒」が在籍しています。ここには本人は日本国籍でも保護者が外国（現在12カ国）にルーツを持つ生徒も含まれます。様々な国から、様々な時期に来日する生徒に日本語を指導するのが日本語教室です。日本生まれの生徒も増えています。生育歴も出身国もばらばらなため、なかなか漢字が覚えられなかつ

たり、敬語で話せなかったり…と課題も人それぞれです。どの教室にも外国につながる生徒がいるため、日本人の生徒も自然に異文化を受け入れて生活しています。この「当たり前のように生活している」ことが、実は「本校ならではの貴重な体験をしている」ことを多くの生徒や保護者の皆様に理解してもらえたらと思います。

第4回学校運営協議会の報告

令和6年2月9日（金）に今年度最終回の学校運営協議会が開催されました。今年度の活動確認や今後の取組について協議いたしました。

今年度の成果としては、地域事業所の要望を受けて美術部が当該施設シャッターにデザイン装飾する企画が開始できたこと、1年生のキャリア教育充実のため市商工会青年部に依頼して複数業種の講師を招聘して「職業人らに聞く」の行事を復活実施できたことが確認されました。

今後の予定としては、3月には本校教育活動に御協力いただいている各種ボランティアの皆様との顔合わせ会の実施を計画しています。

表彰の記録

○男子バドミントン部

- ・小山ライオンズ杯争奪中学生大会
男子団体 第3位
1年生ダブルス 準優勝
・ ペア

○バレーボール部

- ・栃木県協会会長杯下都賀地区予選 第3位

○柔道部

- ・第60回小山市総合競技選手権大会
男子個人 優勝 準優勝
優勝 準優勝
第3位
女子個人 準優勝

○第49回「小さな親切」作文・標語コンクール

- ・作文 最優秀県知事賞
優良賞
- ・標語 最優秀県知事賞
優秀県コミュニティ協会賞
優良賞
- 佳作

○令和5年度 動物ふれあい作品展

- ・ポスターの部
佳作







